令和５年度

トゥール市派遣親善研修生
報告書

令和5年9月7日(木)～9月19日(火)　13日間

Takamatsu International Association
公益財団法人 高松市国際交流協会

目　次

1　親善研修生滞在日程表 …… 1

2　フォトギャラリー …… 3

3　親善研修生　報告書　Ⅰ

関西大学　環境都市工学部建築学科４年　安藤　陸都

日誌・活動記録 …… 5

感想文「地元と海外を繋ぐ」 …… 14

4　親善研修生　報告書　Ⅱ

香川大学　農学部応用生物科学科３年　川路　真桜

日誌・活動記録 …… 15

感想文「一生の思い出に残る経験」 …… 29

令和５年度　トゥール市派遣親善研修生　滞在日程表

令和５年９月７日（木）－９月19日（火）

日　付	場　所	内　容
９月７日（木）	高松空港－羽田空港	―
９月８日（金）	羽田空港－シャルル・ド・ゴール空港－ サン・ピエール・デ・コール駅到着（TGV）	トゥール市役所職員・ホストファミリー出迎え トゥール市内観光
９月９日（土）	トゥール植物園 Botanique aux couleurs du Japon	日本文化紹介イベントに参加 うちわワークショップ
９月10日（日）	ホストファミリーと過ごす	―
９月11日（月）	徒弟制度博物館	職人が使用する道具や技術を見学
	小学校訪問　Veil Elementary school	書道ワークショップ
	トゥールラング語学学校	学校見学、日本人留学生との交流
９月12日（火）	自然史博物館	企画展見学、爬虫類などの触れ合い体験
	小学校訪問 Rimbaud Elementary school	おりがみ・日本の夏祭り体験ワークショップ
	トゥール市役所	歓迎レセプション ホストファミリー・関係者が参加
９月13日（水）	屋内・屋外市場	市場見学
	図書館訪問 Médiathèque des Fontaines	高松市紹介動画・おりがみワークショップ
	屋内市場内会議室	日の出日仏協会のみなさんと交流
９月14日（木）	トゥール大学ブロア校技術短期大学部	施設見学・学生との交流
	マルムティエ高校	日本語クラスの学生と交流
９月15日（金）	トゥール美術館	館内見学
	ヴィランドリー城	城内・庭園見学　城主訪問
９月16日（土）	ホストファミリーと過ごす	―
９月17日（日）	サン・ピエール・デ・コール駅出発（TGV） ーモンパルナス駅	ホストファミリー見送り
	パリ	パリ市内観光
９月18日（月）	シャルル・ド・ゴール空港－羽田空港	―
９月19日（火）	羽田空港－高松空港	―

【９月８日（金）－16日（土）　トゥール市でホームステイ、９月17日（日）　パリ市内泊】

Tours × Takamatsu

35 Years Anniversary

令和5年度 トゥール市親善研修生派遣事業

Tours Ambassadors 2023 Photo Gallery

ホストファミリーと対面

トゥール市の
親善研修生のみなさんと

トゥール植物園
日本文化紹介イベントに参加

現地小学校で
書道ワークショップ

現地小学校で
おりがみワークショップ

トゥール市役所での
歓迎レセプション

Tours Ambassadors 2023 Photo Gallery

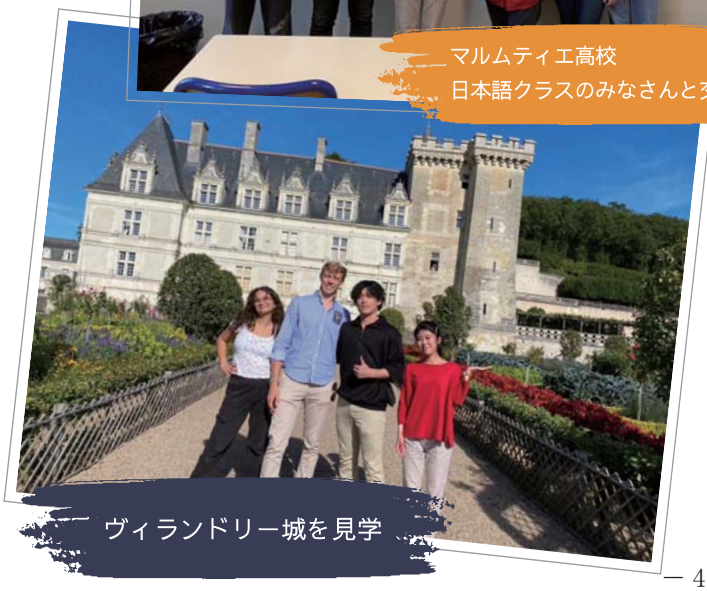
トゥール市役所　国際交流担当助役
エリーズさんと

図書館で高松市を紹介

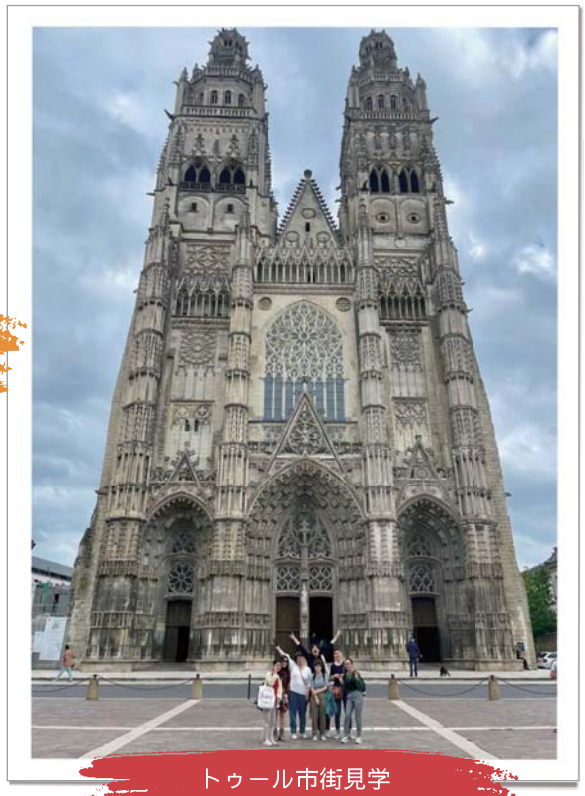
トゥール大学ブロワ校技術
短期大学部のみなさんと交流

日の出日仏協会の
みなさんと交流

マルムティエ高校
日本語クラスのみなさんと交流



ヴィランドリー城を見学



トゥール市街見学
サンガシアン大聖堂

親善研修生　報告書　I

親善研修生　報告書Ⅰ

日誌・活動記録

関西大学　環境都市工学部建築学科４年　安藤　陸都

９月７日（木）

昼過ぎに高松空港に集合し、荷物の総重量ぎりぎりでなんとか計量成功して出発。羽田に到着して最後の和食は広島焼きを食べた。トランジットの時間が長かったので空港でゆっくりしていざフランスへ。

最後の日本食はお好み焼き

９月８日（金）

０時に羽田発、行きの飛行機では現地で時差ぼけしないように極力寝ていた。14 時間のフライトの後、パリのシャルル・ド・ゴール空港に到着。ガイドさんと合流した。エスカレーターが壊れていたので、とても重い荷物を持ってホームへ降りなければならなかった。ガイドさんが普段トゥールに住んでいる方で、パリやトゥールについてとても詳しく教えてくれた。やはり現地に住んでいる方でもスリにはとても気を付けなければいけないため、治安はあまり良くないと言える。TGV に乗ってトゥールのサン・ピエール・デ・コール駅に到着。とてもスムーズに移動することができた。ホストファミリーと初めて対面し、考えてきた自己紹介の文をフランス語で言うととても喜んでくれた。私のホストファミリーはセヴリンさんという女性、同じ親善研修生の川路さんのホストファミリーはヤニックさんというフランス語学校の校長先生だった。この日はセヴリンさんが仕事なので、ヤニックさんとトゥールラング語学学校の生徒さんたちとレオナルド・ダ・ヴィンチの家であったクロ・リュセ城に行った。15 世紀半ばに建てられ、近くのアンボワーズ城と地下通路でつながっている。レオナルド・ダ・ヴィンチが晩年を過ごしたことでも有名で、中には「モナ・リザ」のレプリカもあった。イタリア出身のレオナルド・ダ・ヴィンチの多くの傑作がフランスにあるのは、戦争に負けてフランスに逃げた際に馬車に作品を積んできたからだそうだ。クロ・リュセ城付近を車で案内してくれた。道がとても入り組んでる。この辺りは日本でいう城下町のようなところだ。ここに限らずだが、トゥール市全体でも市街地以外はほとんど信号がなく、交差点は円形のものが多い。そして路上駐車も多い。街路のギリギリまで家がせり出して並んでいる。コミュニティ道路という歩行者と車が共存できる道のようなものが至る所にあり人の生活への配慮がみられた。ただ一方通行ではないので片方が譲って通さないといけない。トゥールには

シャルル・ド・ゴール空港到着

中庭から望むクロ・リュセ城

マニュアル車が多く、パリなどの大都市では頻繁に渋滞になるのでオートマチック車が多いらしい。

帰宅してからラグビーワールドカップ初戦フランス対ニュージーランドのパブリックビューイングに行った。セヴリンさんの友人のステフとイザも一緒に観戦した。実力派同士の試合で見ていてとても面白かった。試合はフランスが勝利しとても盛り上がり、最高の経験になった。ここではビールをご馳走してもらった。フランス語で「乾杯」は「サンテ」というらしい。

9月9日（土）

トゥール市の親善研修生と

朝は8時くらいに起きて、ホームステイ先の猫のブラウニーとポッキーと一緒に庭でコーヒーを飲んで過ごした。昼食は昨日一緒に夕食を食べたイザが家に来て、一緒にサラダとアップルパイを食べた。フランス語で「召し上がれ、食事を楽しんでね」は「ボナペティ」という。

午後から川路さんとワークショップを開催するため植物園へ行った。そこではアニメのコスプレイベントや竹アート、日本の漫画や水墨画、その他の雑貨などが販売されていた。とても賑わっており、日本のことを好きな人がとても多く嬉しかった。そこの一角にスペースをいただき、うちわに習字で名前を書いてプレゼントするワークショップをした。私が当初想像していたよりもはるかに多くの人が来てくださり、またこの日はとても暑かったので、うちわはすぐに数量に達した。ワークショップの時に自分の名前を書いた名札を付けていたほうが来場者に覚えてもらいやすかったかもしれないと感じた。植物園にはランニングやジョギングする人、遊具で遊ぶ子供やそれを見守る家族もいっぱいいて公園全体が活用されている感じがしてとても感動した。ワークショップ中はトゥール市から高松市へ派遣される親善研修生のルカとラザンヌ、去年の親善研修生のコラリーとオセアヌも力を貸してくれて心強かった。ワークショップも終わり、イザとセヴリンさんとスーパーマーケットへ行き、ピザとビールをたくさん買って帰った。夕食はセヴリンさんのいとこのセシーンと、その息子のトマと食べた。トマはパティシエをしているらしく、いつかトマが作ったケーキを食べてみたい。

9月10日（日）

この日は終日ホストファミリーと過ごす日だった。朝からマルシェへ行き、ローストチキンと豆を買ってきた。マルシェは日曜の朝、移動販売車やテントが広場に集まり生鮮食品やチーズ、服などが売られて、多くの人で賑わっていた。帰りに車の位置が分からなくなりセヴリンさんと一緒に迷子になりかけた。

相方の川路さんと

午後からは川路さんと一緒にアゼル・リドー城へ行った。ここは水盤に映る城が美しいことで有名だ。後日見学するヴィランドリー城とほとんど同じ16世紀前半に建

てられているが作りは全然違っていた。ルネサンスの特徴が多くみられ、使われていた当時の家具などもたくさん置いてあったので見ていておもしろかった。

夕食はセヴリンさんの義母のマリーズ、トマ、セヴリンさんの妹のルシル、夫のアレクシー、息子のヴィクトーとクリモー（ゼヴリンさんの甥っ子）と一緒に食べた。マリーズの家はひとつの家をふたつの家庭で共有するセミデタッチドハウスと言われる住宅で日本ではあまり見ないものである。バーベキューのウインナーとビールがマッチしてとても美味しかった。

9月11日（月）

7時に起きて準備をする。今日は雨が降っている。傘をさしている人は少なく、レインコートが多い。セヴリンさんが車で集合場所まで連れて行ってくれた。朝の時間帯は天候もあってか、とても渋滞している。交通基盤が渋滞に適していないと感じた。1時間早めに到着し街歩き。旅をするときにこれだけは欠かせない。この町は都市計画がしっかりとされているのが印象的だった。真ん中の軸線に対して対称に碁盤の目状に街路が広がる。軸線にはメタリックなトラムが走り、歴史的な建築が対比されているようで美しかった。このとき私はトゥールの街並みの虜になっていた。

メイン通りの脇にあった教会

トゥール市役所のオロールさんと合流してミュゼ・ドゥ・コンパニオナージュ（従弟制度博物館）へ。中では職員のトステインさんが英語で説明してくださった。ここは職人が自分たちの権利を守るために、集まって知識や技術を交換するところだ。比較的小さな博物館ではあったが、様々な職人の傑作が多く展示されていた。石工にしても色々な技術があって、トゥールの石は柔らかく加工しやすいらしい。また女性の職人の本格的な人権保護が始まったのは15年前からだという。ミュゼ・ドゥ・コンパニオナージュの見学を終えて、そこからトラムに乗って小学校に向かうはずだった。しかし、逆方向のトラムに乗ってしまった。幸い他の乗客に聞いたら優しく教えてくれたので、すぐに小学校へ向かうことができた。このヴェール小学校でのワークショップは日本の縁日体験と習字だったが、とてもハードだった。まず高松市の紹介動画を見せたら声に出してリアクションしてくれてとても新鮮だった。縁日はスーパーボールすくいをしたが、みんなとても楽しそうに遊んでくれていた。しかし習字は墨を入れた紙コップが倒れたり、筆で遊んだりしてとても大変だった。3グループ約60人の子供たちとワークショップをした。フランス語は少ししか分からなかったが、子供たちは身振り手振りでどうにか伝えようとしてくれて感動した。昼休みは子供たちと一緒にバスケットボールやバレーボールで遊んだ。市街地に帰ってきてトゥールラング語学学校に行って交流会をした。ジュースとお菓子を食べながら生徒たちと話した。中でもパティシエや料理人を目指してきている人などがいて、フランスらしいなと感じた。みんなフランス語を学びに来ている理由はたくさんあるようだった。ラザンヌとルカ、ヤニックさんの息子のルカもいてとても楽しい時間だった。21時に帰宅して、猫のブラウニーと戯れながら明日トゥール市役所での歓迎式典に向けて準備をして寝た。

9月12日（火）

雑多に並べられた動物のはく製

トゥール市役所中庭に集合して自然史博物館へ。ここトゥールに30年前からあり、毎年展示物が変わっている。写真やはく製、実物の爬虫類が多く展示されていて、色んな動物の説明をしてくれた。ルカとダミアンが通訳してくれてとても助かった。ダミアンはトゥールの大学で日本語と法律を学んでいて、来年日本の大学に来るらしい。展示の仕方は日本のものとは少し異なり、ショーケースには入れず自然のワンシーンを切り取ったような姿で展示されているものが多かった。3階にはマナティの骨の他、様々な剥製があった。シマウマの剥製は一体で300万円くらいらしい。2階では爬虫類が飼育されており、小さめの蛇を3種類触った。初めての体験だったが今でも感触を覚えていてとても気持ち悪かった。

初めて蛇を触った

そのあとダミアンとバスでランボー（Rimbaud）小学校へ行った。フランスの小学校には詩人や小説家の名前が使われるらしい。この小学校は移民の子供の割合が多く、クラスには学級委員（ディストリビューター）がいて昨日の学校と比べてまとまりがあったように思う。ワークショップでは折り紙（猫と羽ばたく鳥）を折ったり、水風船で遊んだりした。1クラス約25人で、今回はダミアンが通訳や準備まで助けてくれてとても頼もしかった。ワークショップ後にバスで市内に戻ってきてラザンヌ、ルカと合流した。式典まで時間があったため5人でカフェのテラス席で休憩してから、トゥール出身の建築界の巨匠ヴィクトール・ラルーが設計した市役所で歓迎式典に参加した。式場には高松市の市旗や両市のこれまでの交流の記録、写真が多く飾られていた。あいさつでは市民との交流を通して、親善研修生として建築を学ぶ学生として日本と文化の異なるフランスの人や街を知っていきたいと発表した。式典にはたくさんの人が来ていた。日本とフランスを繋いでいる人がこんなにいることやその人たちに支えられてこの活動ができていることに感謝せずにはいられなかった。式典の後には交流パーティーがあり、ラザンヌとルカ、去年の親善研修生の他、ダミアンの友達などとも話すことができた。写真をたくさん撮って新聞の取材に答えてから、セヴリンさんと一緒に帰った。

トゥール市役所のエントランスホール

9月13日（水）

昨日同様、市役所の中庭でオロールさんと合流して街を歩いて案内してもらった。トゥールは2つのメインの街区があって、その真ん中に軸線が取ってあり、その軸線にトラムが走るようになって

いる。トラムはメタリックなデザインでメインストリートの電線は地面に埋められていた。近代的なトラムに映る歴史的な街並みがとてもきれいだった。そして少し進むと、もともと6世紀にあったバシリカ聖堂がヴィクトール・ラルーによって再建されたサン・マルタン大聖堂があった。周辺の道路には十字架の印がつけられていた。これは再建される前のバシリカ聖堂の柱がたっていた場所がポイントされており、現在のサン・マルタン大聖堂の2倍以上あったという。トゥールの石はトゥフといい、柔らかくて加工しやすいもので、ミュゼ・ドゥ・コンパニオナージュの説明と一致していたことも興味深かった。さらに屋内マーケットと屋外マーケットを案内してくれた。しかし買い物する時間はなかった。

バシリカの柱が道路にプロットされている

屋内マーケットの様子

そのあとバスで図書館へ行き折り紙のワークショップをした。10人程の少人数で小さな子供とそのお母さんやおばあちゃんなどと一緒に猫や鳥などを作った。そこであるおばあちゃんから息子がマルセイユで建築家をされているということで、その方の連絡先を下さった。いつかこの建築家にも会いたいと思う。

オロールさんのオフィスからの眺め

昼食は市役所の食堂でいただいた。食堂の人に自分で注文をし、オロールさんの上司の方と一緒にいただいた。ラタトゥイユなどとても美味しかった。その後は市役所の中庭に戻って日仏交流活動をしている日の出日仏教会の麗子さんと日本語を勉強している生徒のみなさんと街歩きをした。令和元年度親善研修生の門田さんのホストファミリーだったリルーさんもいて、とても日本語が上手だった。一旦家に帰りヤニックさんのお宅に邪魔した。家族みんなでクレープやガレットをいただいた。とても美味しかった。

麗子さんと生徒さんと私たち

そのあとはルカとラザンヌ、川路さん、そして去年の研修生だったコラリー、オセアヌと飲みに行った。

9月14日（木）

今日はセヴリンさんの誕生日だった。ディナーにはセヴリンの長男のユウゴにも会えるので楽しみに家を出た。トラムでトゥール駅まで移動。歓迎式典で会ったクリスティンと合流しTGVでブロワへ。まずはIUTトゥール大学ブロワ校技術短期大学部へ行った。もともとはチョコレート工場だったところを大学にコンバージョン（再利用）したらしい。トゥール大学

現地の日本人留学生とも交流

ブロワの街並み

のドゥボー先生とキャンパス内を案内してもらい2人の日本人留学生と会った。日本の高専とは設備も研究内容も違う部分が多いらしく大変だと言っていたが、2人のように外国で頑張っている同年代の人を見ると負けていられないなと感じる。9月だったため新入生が入ってきている。昼食は大学の食堂で一緒に食べた。次にクリスティンと一緒に少し小高い丘の上にある情報系のキャンパスへ移動した。16人の大学生と英語でフリートークをした。フランス人は皆英語が流暢なものだと思っていたが、英語が話せる人も話せないも人もいた。しかしお互い身振りで何とか話しているうちに仲良くなり、パソコンの授業に参加しないかと聞いてくれた。なんでもやってみよう精神の僕はすぐに「Yes」と言い、参加させてもらった。パソコンを使って自分の性格や得意なことをまとめていた。日本のこと、特にアニメや漫画を好きな人が多くてとても嬉しかった。帰りに少しだけブロワ城を見学して、クリスティンと一緒にトゥールへ帰ってきた。そしてオロールさんが車でマルムティエ高校まで送ってくれた。高校では安井先生と日本語学んでいる生徒4人が質問を考えてきてくれて私たちがそれに答えていった。「犬派か猫派か」という日本でもよく聞く質問や、名前の漢字とその由来を聞かれた。また「フランス人の印象は」と聞かれ、私は「思っていたより日本が好きな人たち」と答えた。もともとフランスでは日本のアニメが人気だというのは知られているが、私が想像していたよりもはるかに日本が好きで、ワークショップ先では自分たちがまるでアイドルのようだった。質問会も終わり写真を撮って、帰りは安井先生が車で送ってくれた。安井先生はトゥールで長年日本語の先生をされていて、トゥールラング語学学校で会った生徒のホストファミリーをしていた。

マルムティエ高校で交流

セヴリンさんファミリー

家に帰るとユウゴ、みつえさん、イザ、セヴリンさんのお母さんのミッシェルが誕生日パーティーの準備をしていた。この日のためにとっておいた日本酒をふるまうととても人気だった。夕食もとても美味しかった。また初日のワークショップで余ったミニうちわをセヴリンさんとイザ、ミッシェルの名前を書いてあげるととても喜ばれた。

9月15日（金）

この日の朝はゆっくりできた。8時に起床してトゥール美術館へ。ラザンヌが一緒に回って説明してくれた。建築があまりすごいという印象ではなく、絵画や彫刻が多く飾られていた印象が強かった。内装は19世紀っぽいデザインで18世紀の絵画で有名。飾ってあった絵の

ヴィランドリー城正面

みんなでルカの身長に

中にトゥールの風景を描いたものがあった。それはトゥールにあるウィルソン橋が 1978 年に崩落したことを描いていた。その絵のポストカードを買って庭でコーヒーを飲んだ。どこか本当にフランス人になった気がした。

トゥール市役所の食堂で二回目の昼食。今日もオロールさんの上司の方と一緒に食べた。昼食が終わるとオロールさんの運転でヴィランドリー城へ行った。庭園と城がマッチしていてとても美しい。ルカとラザンヌと一緒に回った。最初に城主のカルヴァロさんが少し案内してくださり、日本人の作品を見せていただいた。16 世紀前半に建てられたヴィランドリー城は、ルネサンス期にロワール川沿いに建てられた主要な城の中で最後に建てられたもので、今の庭園は 19 世紀に伝統的な庭園が取り壊されイギリス式のものになったようである。ここでは正面から見ると若干左右非対称に作られていた。またこの時期の建物に多く見られる尖塔や豪華な飾りはなく、シンプルであると感じた。塔の上からは幾何学的な庭園を望むことができ、感動した。トゥールに帰ってきて、ルカと一緒に彼女の誕生日プレゼントを買いに行った。フランスブランドのブレスレットを買えてよかった。

ヴィランドリー城の中庭

家に帰ってセヴリンさん、マリーズ、ユウゴ、みつえさんと夕食。フランスの人は食事にかける時間が長く、大半を話しながら過ごしていて、「休み」を大事にする国民性が見えた。毎日おいしい料理が食べられて幸せだった。

9 月 16 日（土）

この日はトゥール最後の日だった。朝食にうどんをふるまった。やはり香川といえばうどんだ。水でしめた冷と温かいぶっかけうどんを作った。美味しかったと言ってくれて嬉しかった。昼食は七面鳥のトマト煮を食べた。昼食後時間があったので、中庭にあったプールで泳いだ。とても気持ち良かった。

朝うどんをふるまった

ランジェ城の玄関

午後からはトゥールから車で 1 時間くらいのところにあるランジェ城に行った。ランジェ城は、世界遺産「シュリー＝シュル＝ロワールとシャロンヌ間のロワール渓谷」に含まれる城で、10 世紀後半に建てられた塔と 15 世紀に建てられた城で構成されており、中でもフルク・ネラが建てた主塔は、ロワール最古の主塔といわれている。セヴリンさん、ユウゴ、みつえさん、近所の人、川路さんと一緒に行った。

ロワール川の近くのガンゲットというビアガーデンのような所で夕食。お土産で持ってきたたこ焼きせんべいをおつまみにして、ジントニックとビールどちらもローカルなものを堪能。トゥーローグというローカルバーガーも美味しかった。すべてホストマザーにご馳走してもらった。セヴリンさんの妹のルシルファミリーも後から合流した。ヴィクトーとクリモーが可愛かった。今日で会うのが最後だと思うとすごく寂しい気持ちだった。

ガンゲットでユウゴと

9月17日（日）

朝、セヴリンさんがサン・ピエール・デ・コール駅まで送ってくれた。近くに駐車場が無くて遠くから歩いた。見送りにラザンヌも来てくれて、ホストファミリーたちにお別れをして出発。一生懸命記憶を整理しているといつのまにかパリに着いていた。パリに着くとすぐにウーバーでホテルへ向かった。チェックインを済ませていざパリの街へ。すぐにオペラガルニエへ向かい写真を撮って、ルーブル美術館へ。

工事中のオペラ座で作品を展示していた

モナ・リザに群がる人々

ここで、最初にパリに着いたときにガイドさんからのアドバイス通りに、ガラスのピラミッドの後ろにあるカルーゼルの凱旋門の下から入るルートで行くととても空いていた。モナ・リザ、サモトラケのニケ、ミロのビーナスなど見所は抑えたが、それでも全然時間が足りなかった。ルーブル美術館をしっかり見ようと思ったら3日かかるといわれているのも納得できる。そのあとエトワール凱旋門へ徒歩で向かいながら夕食を探すことにした。エッフェル塔を目の前に望むテラスでパスタとバーガーを食べた。2人で92ユーロ（約14,000円）だった。凱旋門に着いて写真を撮っていると雨が強くなってきたので、地下通路で雨宿りしてウーバーでホテルへ帰った。次の日は5時半出発だったのでほとんど寝る間もなく次の日を迎えた。

イオ・ミン・ペイ設計のガラスのピラミッド

9月18日（月）

早朝からバス移動。パリ市内は道路の舗装が石畳でごつごつしているため、バスがスピードを出すと車内ががたがたと音を立てて怖かった。空港に到着して預け荷物が重量オーバーしたので、預け荷物の服を全て着て搭乗することになった。就寝時間中にふと目を開けると機内がフランスカラーの赤白青色にライトアップされていて、本当にフランスでの研修が終わってしまったということを改めて実感した。本当に素晴らしい体験をさせてもらった。

全ての服を着て搭乗

9月19日（火）

日本に到着したのは早朝だった。久しぶりの日本食はカツサンドを選んだ。最高に美味しかった。高松空港に着くと高松市国際交流協会の片山常務と西村さんが迎えてくれた。帰ってきて最初にセヴリンさんに無事に着いたと報告して研修は終了した。

番外編10月14、15日

建築学科の友人と再度トゥールを訪問した。実はこのプログラムが決まる前からヨーロッパ旅行を計画しており、私が研修で行ったトゥールの良さをぜひ友人にも知ってもらいたいということでもう一度行くことにした。研修でお世話になったダミアンとその友人であるマルタンと夕食に出かけた。マルタンとは歓迎式典で一度会っていたので、すぐに打ち解け3人でトゥールを堪能できて、とても楽しくどこか懐かしい感じがした。その後、パリからユウゴが帰ってきたのを迎えに行き、一緒にセヴリンさんの家に帰った。一か月ぶりの家は全く変わっていなかった。この時初めてセヴリンさんの長女クラリスに会った。みんなで一緒にルシルファミリー宅へ行き、ユウゴの誕生日会をした。そのときに私が食べたかったフランス料理のポトフと、ご当地のヴーヴレイというスパークリングワインをいただいた。ここで旅行では体験できない人の温かみを感じ、再度親善研修に参加してよかったと思った。

親善研修生　報告書Ⅰ

感想文

地元と海外を繋ぐ

関西大学
環境都市工学部建築学科　4年
安藤　陸都

研修も終わってみると得たものはとても多かった。私はたくさんの人に支えられていることを改めて感じさせられた。研修期間中はとても忙しく大学院入試と研修、学校の課題が重なり忙しい状況だった。しかし大阪と香川を往復する生活で、隔週で地元に帰ることが出来て嬉しい気持ちになった。また事前研修でお世話になった先生方、またトゥールでお世話になったみなさまには感謝の気持ちでいっぱいだ。

今回初めてフランスに行ったが、そこはやはり多くの私たち日本人が羨むフランスが広がっていた。私が滞在したトゥールにも歴史ある建物や街並み、それと対比するかのようにメタリックなトラムが走る。人々はしばしば家族や友人と集まり、家の庭やテラスで食事を楽しむ。日本より人々の生活が外側に表出していることに気づき、私は建築を学ぶ学生として一人の人間としてここまで興味深かった10日間はなかった。また私は普段から旅行に行く際、あまり計画を立てずに行くことが多かったが、今回で予定を立てたり、それに向かって準備したりする大切さを再認識した。

普段流れている日常が私たちの日常ではない。私たちが当たり前だと思っていることが当たり前ではない。文化とは何かを問われたことがある。私はその場で即答することが出来なかったので帰って検索してみた。文化とは人間が学習によって社会から修得した生活の仕方の総称である、ということを知った。私はここに着目して今後の建築学生、建築家としての道を歩まなければならないと実感させられた研修でもあった。

帰国してからは少しの時差ぼけと多くの思い出に浸りながら帰阪の途についた。セヴリンさんファミリーにはこの1ヶ月後にもう一度トゥールを訪れたときにも迎え入れてくれた。私が食べたいと言っていたポトフやヴーヴレイも用意してくれていて、その旅行中には感じることのできなかった人の温かさというものを感じることができた。さらに旅行では体験できない貴重で素晴らしい経験を、この研修でしていたということ改めて実感した。そして友人にトゥールを紹介するという親善研修生としての役割ができたかなと思う。

最後に私の長所は行動力だと思う。今回の研修に参加してより新しいことの挑戦するためのハードルを自分の中で下げることができたと感じている。私の夢は、地元と世界を繋ぐ建築家である。今回の研修で多文化共生の概念がさらに強く、この経験は私にとって間違いなく糧になると確信している。そしてもっと視野を広く持ち、建築の勉強をして自分の夢を叶えられるように、今後も精一杯考えて行動していきたい。

親善研修生　報告書　Ⅱ

親善研修生　報告書Ⅱ

日誌・活動記録

香川大学　農学部応用生物科学科３年　川路　真桜

９月７日（木）

いよいよフランス、トゥールに向けて出発する日が来た。集合が遅い時間だったので、睡眠も十分にとることができた。現地で開催するワークショップのための事前研修を重ねるにつれて今回のトゥールでの滞在がさらに楽しみになっていったが、出発が近づくとワークショップで分かりやすく説明ができるか、ホストファミリーとうまくやっていけるか、スリに会わないか不安も増えていった。最後に忘れ物がないかとても心配になったので、再度確認し必要でなさそうなものまでスーツケースに詰めて高松空港に向けて出発した。空港では、高松市国際交流協会の職員の方や旅行会社の方が見送ってくださった。荷物の重量制限が心配だったがクリアして羽田空港に向けて出発した。

９月８日（金）

いよいよ入国

羽田空港で乗り継ぎを待つ間、同じ親善研修生の安藤君と最後の日本食を楽しんで、いよいよフランス行きの飛行機に搭乗した。フランスでちょうどラグビーのワールドカップが９月８日から開催されることもあり、お揃いのはっぴやユニフォームを着た日本人サポーターと思われる乗客が多かった。出発前、機内でワークショップの進行を考えたり、折り紙の練習をしたりするつもりだったが、深夜発だったせいか機内は終始暗いままで何もできず、おいしい機内食を楽しんだり、映画を見たりしているうちに約15時間の長旅があっという間に終わり、パリのシャルル・ド・ゴール空港に到着した。入国審査を終えて、空港を出ると現地ガイドの方と合流した。トゥール行のTGV（フランス全域とフランス国外の各都市を結ぶ高速鉄道）の乗車時間を待つ間、朝食のクロワッサンを食べながらガイドさんからパリ観光のこと、トゥールのことを伺った。実は、このガイドさんはトゥールに住んでいた。美しく、治安も良いのでいいところだよと教えていただいたので、ますます期待が膨らんだ。そしてTGVに乗るためにホームに向かった。ここで、いくつかのハプニングがあった。私たちはホームに降りるためにエスカレーターに乗ろうとしたのだが、なんと停止していたので重たい荷物をなんとかホームまで担いで下ろさなければならなかった。また、TGVに乗ろうとして列になって待っていても、割り込んでくる乗客もいる。さらに、ホームと車両の間に子供一人分位の隙間があいていて、小さな荷物を落とさないように気を付けた。乗り込んだものの、なぜか自分たちの席に知らない人が座っている。そこは私たちの席だと声を掛けたら別の場所へ移ってくれたが、周りの席でもおそらく同じような会話が数か所から聞こえてきて驚いた。

１時間ほど豊かな田園風景を眺めたり、フランス語の復習をしたりしているとあっという間にサン・ピエール・デ・コール駅に着いた。ホームに降りると、トゥール市役所のオロールさんが出迎えてくださり、その後私のホストファーザーのヤニックさんと安藤君のホストマザーのセヴリンさんにお会

いした。ヤニックさん、安藤君、ヤニックさんが校長を務める語学学校（トゥーラング語学学校）の生徒と、私でクロ・リュセ城（レオナルド・ダ・ヴィンチパーク）へ行った。ここは、レオナルド・ダ・ヴィンチが亡くなるまでの最期の3年間を過ごした場所として有名で、後ろ盾のなくなったダ・ヴィンチをフランソワ1世がフランスに招いたためだ。その際、ローマから「モナリザ」をロバに乗せて持ってきた。そのため、ダ・ヴィンチの代表作「モナリザ」はパリのルーヴル美術館で鑑賞できる。クロ・リュセ城ではダ・ヴィンチの創作や発明品も展示されていて、優れた画家であっただけでなく、植物学者、土木・軍事技師、解剖学者、科学者、建築家としても活躍したことがわかる。ヤニックさんに説明していただきながら、みんなで楽しく会話をしながら初めての観光を楽しんだ。ネコがのんびり城内で日向ぼっこをしているのがとても可愛かった。湿度は低いものの、気温が高く暑かったのでアイスを食べた。キャラメルの濃厚な甘さといちごの甘酸っぱいさが移動の疲れと想像以上の暑さを忘れさせてくれた。

クロ・リュセ城のモナリザ

文字を読めるはずがない

その後ついに、他のホストファミリーと対面した。ヤニックさんの奥さんの芽里奈さんと5人兄弟のルカ、ルイ、レオ、トマ、テオ、ヤニックさんのお母さんのエレーヌさん。また、エレーヌさんのお宅にはオランダからヤルーさんとエステルさんご夫婦が2週間フランス語の勉強のために来られていた。晩ごはんはトマトやナスの煮込みをクスクスの上にかけていただいた。野菜の甘さを感じられてとてもおいしかった。時差ぼけのせいかとても眠くなったので早く寝た。夜が遅いにも関わらずトゥール市内はラグビーワールドカップの初戦、フランス対ニュージーランド戦でフランスが勝ったため、とても盛り上がっており、近所からすごくにぎやかな声が聞こえた。

ホームステイ先の部屋から見える街並み

9月9日（土）

10時に全員で朝食をいただいた後、エレーヌさんの車でワークショップの開催場所であるトゥール植物園へ向かった。あまり時間がなく植物園内を回ることができなかったが、フラミンゴや鴨などの鳥やヤギ、陸亀がいて小さな動物園のようだった。後から昔はクマも飼育されていたことを教えてもらった。この日は、日本文化を紹介するイベント「Le Jardin Botanique aux couleurs du Japon」を開催しており、お好み焼きなどの日本食の屋台やアニメ、空手を紹介するブースがあった。もののけ姫のサンやワンピースのナミなどのコスプレをしている方が多く、どれも本物のキャラクターそっくりで、トゥールの方にも日本のアニメが愛されていることを実感した。ホストファミリーの子供たちもみんなワンピースが好きだと言っていた。その他にも、日本画や魚拓なども売られていた。私たちも会場内にブースを構えて、ワークショップを行った。この日は、高松市の名所を紹介するうちわ

植物園でのワークショップ

の裏面に、訪れた方の名前をカタカナとひらがなで書いたものと、折り紙研修でご指導いただいた田中先生の折り紙作品をプレゼントした。ブースに大きな列ができるほど、たくさんの方に来ていただいた。トゥールから高松に派遣される親善研修生のラザンヌとルカにも初めて会った。驚いたことに、ルカから安藤君に、ラザンヌから私にプレゼントをくれたのだ。研修生同士、事前に交流を図っていたので、興味があると言っていたコスメをくれたり、青色が好きだと言っていたので青色の服を着て来てくれた。私からは讃岐かがり手毬のキーホルダーをプレゼントした。伝統工芸品だと言うとすごく喜んでくれ、ノートに書いた英語の説明をルカは忘れないようにと写真をとって覚えてくれた。興味を持ってもらえたので、二人が高松に来た際には、香川県にあるたくさんの伝統工芸品を紹介したいと思った。また、昨年度のトゥールからの親善研修生のオセアヌとコラリーにも出会えた。みんなとても明るく優しいので、私たちもすぐに打ち解けて高松のことや、フランスに来てからの話をした。私たちはフランス語を話せないので、彼らがフランス語でブースに訪れた方に高松市についての紹介や、今回のワークショップの内容を説明してくれた。多くの方が高松市のパンフレットを取っており、いつか高松市に遊びに来てほしいと思った。小さな子供たちも多く、「ありがとう」とか「私の名前は〇〇です。」と日本語で話してくれる子も多くいた。まだ生まれたばかりの赤ちゃんの名前をうちわに書いて一緒に写真を撮ったりもした。時間が足りないくらい大勢の方に来ていただいた。

20 時に夕食をいただいたが、フランスはこの時間でも外はまだ明るい。夏の時期は日本と比べて日の入りが遅いのだ。この日はフランスパンとチーズもいただいた。チーズは生乳の味がしてとてもクリーミーな上に塩分もほどよくとても美味しい。フランスパンにとても合うと思う。また、デザートでテオに勧められたデラウェアのような葡萄はとても甘かった。この日ヤルーさんご夫婦に夜の散歩を誘われたが、とても疲れてしまったので早く寝てしまった。

9 月 10 日（日）

朝ごはんはバゲット

この日は終日ホストファミリーと過ごす日で、のんびりとした朝を過ごした。この日の朝食もフランスパンと紅茶。ヤニックさんのご自宅にはいちじくが植えられていて、時々いただいている。優しい甘さでとてもジューシーだ。午前中にトゥーラング語学学校の生徒のゆうすけさんが来た。日曜日には近所の広場でマルシェが開かれるというので、エレーヌさんとヤルーさん、ゆうすけさんの 4 人で出かけた。マルシェには野菜や果物、肉や魚などあらゆる食材が売られている。ワインも売られていてフランスらしいと思った。中でもチーズ屋は 4 店舗ほどあり、どれも 10 人近く並ぶ程の大人気。やはりフランスの食卓には欠かせない食材なのだろう。日本では見られない野菜や魚を見られてとても興味深かった。一方で、サヤインゲンや椎茸など日本で馴染みのある食材も売られていた。椎茸はフランス語でも shiitake だとエレーヌさんが教えてくれた。エレーヌさんはミラベルという果実を買っていた。次に、公園の裏にあるフリー

マーケットに訪れた。服や子供のおもちゃだけでなく、ヨーロッパ風の小物や家具も売られていて、とても見ていて楽しかった。中には、フランス語のポケモンカードが売られていた。昨日の植物園のイベントで、男の子が「ポケモン GO してるよ。」と声をかけてくれたことを思いだした。帰り道に公園の中を通った。フランスの公園は、背の高い木がとても多くさらに芝生や花もたくさん植えられている。たくさんの子供が遊んでいたり、カップルが池を眺めながら談笑したり。公園が人々の憩いの場なのだと感じた。公園内で落ち葉を回収して肥料にする小屋を見つけた。日本でも時々見るが、フランスは公園が広いうえに、植わっている木や植物も多いのでそこで出た落ち葉をその場で再利用できるのは効率が良いと思う。正午ごろに戻り、エステルさんも加わってバゲットと先ほどのミラベルをいただいた。この時は、リエットという豚肉をラードや塩で煮込んで作ったペーストを乗せて食べた。豚肉の濃厚な甘みと塩分がパンと非常に合った。また、ミラベルはプラムのような食感で、プラムに比べると甘さが控えめだ。この日は、日本対チリのラグビーワールドカップの試合があり、食後みんなで、テレビで観戦した。結果は日本の勝利。スポーツに関してみんなと共通の話題ができて楽しかった。

マルシェで見つけたしいたけの看板

見事な縦列駐車

午後には、エレーヌさんがアゼ・ル・リドー城に連れて行ってくださった。ここでフランスの車事情について。家に駐車場がなく、家の目の前に駐車用の区画があって車を停める。路上駐車のような感じで、車がわずかな隙間を残して縦列駐車している。家の前といっても個人のスペースが決まっているわけではないので、日によって車が家から離れたり近くなったりしている。また、信号は中心部以外にはほとんどなく、環状交差点が多い。信号がないため車の流れがスムーズで事故のリスクが下がるそうだ。セヴリンさんと安藤君と合流して、城を回った。アゼ・ル・リドー城は 16 世紀初頭に建てられ、フランス建築にイタリアとフランドルの影響を巧みに融合した城だ。歴代の所有者たちによって手を加えられながら現在の見事な優雅で美しい外観に作り上げられた。そして、アゼ・ル・リドー城はルネッサンス様式の象徴的なシンボルとなっている。とても静かでのんびりとした雰囲気の中にたたずむ城で、屋根の青色が澄み渡った青空にとても綺麗に映えていた。窓に向けて斜めに壁が造られていて、室内にも光がたくさん降り注いでいた。壁や天井に細かい装飾が施されていた。城の一番の目玉である大階段は天井にも細かい彫刻が施されていて豪華絢爛であった。私が、印象的だったのは庭から城を眺めたときの湖面に映る城で、風のない穏やかな日だったのでまるで鏡のように映っていた。エレーヌさんに帰り道にとてもきれいでよかったと言いながら家に戻った。

湖面に鏡のように映る城

帰りにエレーヌさんと

9月11日（月）

トゥールに来てから初めての雨で少し寒いと感じる朝だった。今日から本格的にワークショップが始まるので、緊張と楽しみであまり眠れなかった。

砂糖で作られたピンクのかわいいお城

朝は、徒弟制度（コンパニョナージュ）博物館を見学した。フランス国内で工芸品を紹介する数少ない博物館のうちのひとつで多くの学生が見学に来ていた。博物館の職員の方の説明のもと、コンパニョナージュの制度ができたきっかけや現在までの経緯について学んだ。コンパニョナージュの歴史は中世の終わりごろ、15世紀にさかのぼる。この組織は、約30の職業に携わる工芸品の職人たちで構成されている。彼らは異なる専門同士での連携、専門性の向上、道徳的価値の伝達を目指している。異なる工芸品の職人同士で活動したからこそ、お互いの良い技術をどんどん取り入れ、良い刺激となり、職人の技術的な成長の意味合いもあったそうだ。博物館では作品の材質やテーマによって分類されている。砂糖で作られたまるで本物のようなお城の作品や、職人であった息子が作品の完成を前に戦地へ行き亡くなり、彼の父親がそれを引き継いで完成させたという作品。どれも繊細で美しかった。現在では女性の工芸品職人が増えており、女性による作品コーナーもあった。伝統だけでなく現代的なデザインも取り入れている作品が多かった印象だ。

トラムに乗って移動

その後、トラム（路面電車）に乗ってヴェール小学校に向かった。トラムはバスと同様で、事前に1日乗車券や往復券を買って、乗車したときに入口にある読み取り機にかざして乗車するシステムだ。日本の路面電車はかわいらしい感じだが、トゥールのトラムは駅も列車もスタイリッシュだ。初めての乗車で、駅に着いたのがギリギリになってしまい、あまり方向を確認せずに乗車してしまったため、反対方向に行ってしまった。予定より遅れて小学校に到着してしまったが、先生方が私たちを優しく出迎えてくださった。職員室で昼食をいただいた。フルーツや紅茶もいただいて、先生方と交流しながら楽しいランチタイムとなった。校舎内の壁にはかわいい装飾があり、廊下や教室の床や壁はオレンジや黄色。さらに、日光も大きな窓からよく入ってとにかく明るい。先生の服装もカラフルでとてもおしゃれだと思った。午後からは、3つのグループに分かれた子供たちにそれぞれ書道のワークショップを行った。「夢」や「花」など英語で漢字の意味を説明し、先生がそれをフランス語で訳して説明をしながら進めていった。筆を使って字を書くことが楽しいようで、次から次に新しい字を書いてみたいと言ってくれる子もいた。最後のクラスでは、画仙紙にみんなで名前をカタカナで寄せ書きをした。子供たちは人懐こっく、元気でとても可愛かった。英語を話せる子もいるが全く話せない子もいて、説明が難しかったがお互いジェスチャーでコミュニケーションをとった。「まお、これどうやって書くの？」とか「これで合ってる？」とたくさん質問してくれた。休み時間には子供達と遊び、日本語を教えてほしい

子供たちと交流

と言われたので「こんにちは」や「ありがとう」を教えてた。先生が 1 人に対し、生徒が 10 人から 20 人しかいないので、コミュニケーションを頻繁に取っており、先生と生徒の距離が近いように感じた。

プリュムロー広場

その後、待ち合わせの時間まで安藤君と街歩きしてからトゥーラング語学学校を訪問した。学校はプリュムロー広場に面した賑やかな場所にある。ヤニックさんの案内で校舎の見学や学校の説明をしていただいた。テストを大切にしていて、生徒のフランス語の定着を目指しているそうだ。また、日本人の生徒と交流した。先日会ったゆうすけさんにもお会いし、学校のことや生活のことなどみんなで話した。久しぶりに日本語を話しほっとした気分になった。皆さんフランス語を学びに来た経緯はばらばらでゆうすけさんのようにパティシエを目指す方もいらっしゃれば、語学だけを学びに来た方もいる。バイト事情も教えてもらった。フランスでは、留学生のアルバイトが認められていないそうだ。フランス人の学生であっても日本人のように、アルバイトをするケースは稀だそうだ。そのため、多くの留学生は留学前に働いて授業料や生活費を確保する必要がある。生活は大変だとおっしゃっていたが、夢に向かって努力されている皆さんはとても輝いているように見えた。ゆうすけさんの場合「スタージュ」というケーキ屋さんやレストランで職業体験をしながら謝礼をいただけるインターンシップ制度を利用したことがあるそうだ。ホストブラザーのルカに少しフランス語教えてもらったり、ルカとラザンヌとも合流して賑やかで楽しい時間を過ごした。

9 月 12 日（火）

この日は、まず自然史博物館にルカと行った。現地で、安藤君とこの日のガイドをしてくれるボランティアのダミアンと合流し、副館長さんの案内のもと館内を回った。1 階は企画展で、毎年展示内容が変わるそうだ。今回のテーマは南極、そこで観察できる動物や調査したときの詳細が細かく記されていた。フランス語で説明されていたがルカとダミアンの協力や翻訳アプリを利用して理解することができた。ここで、日本での捕鯨の話になり、フランス人はこのテーマについてかなり否定的なことがわかった。いますぐにやめろというわけではなく、伝統を守りながら動物の保護につながっていけたらいいとおっしゃっていた。鯨類の扱いに関する考え方が世界中で変化しているため、日本もいつか変わるのかもしれないと思った。その次に改修中のため特別に爬虫類や昆虫類を飼育している階に行った。ここにいるのは、飼育に必要な免許がない等の理由で飼えなくなって捨てられた生き物たちである。実際にヘビに触らせていただいた。ジメジメして、とても筋肉質。触ってみないとわからないヘビの生態について知ることができた。最後に剥製の展示を見た。剥製の展示は日本でもよくあるが、イノシシやアナグマが群れや親子で過ごす様子やライオンやキツネが獲物を狙う様子がリアルに再現されていて、初めて見る展示方法だった。これなら動物園でなくても実際の生活の様子が想像しやすい。

じめじめとしたヘビの感触に驚いた

次に、昨日とは別の小学校でワークショップを行った。5 年生 10 歳くらいの子がいる教室だった。

移民の子どもたちが多く、言葉が通じない子も多いそうだが、とても国際色豊かな学校だ。この日も、先生方と職員室で昼食をいただいた。子供たちはみんな「こんにちは！」と挨拶してくれた。小学校の教室は、机の配置がばらばらだ。講義を聞きやすい子供たち自身のスタイルをとってもらうため。だから、みんなで机をくっつけて聞き、ホワイトボードの前に座って聞くこともあるようだ。今回のワークショップは折り紙をした。折り紙は細かい作業が多いうえに説明も難しい。そこで、簡単な猫の顔を作ってから、翼をパタパタ動かすことのできる鳥を作った。子供たちはとても苦戦していたが、私たちはクラス中を確認して子供たちのサポートをしたり、ダミアンにフランス語で通訳してもらったりしながら全員が楽しめるように心掛けた。2つの作品それぞれが完成すると子供たちはとても喜んでくれ、猫の折り紙には顔をかいたり、鳥の折り紙は翼をパタパタ動かして遊んだりして楽しんだ。後半は、日本の夏祭りを体験してもらいたかったのでヨーヨー釣りをした。こちらも子供たちに大変人気だった。最後に日本大好きと書かれた手紙をくれた。私にとって忘れられない大切な思い出の一つとなった。帰り際には、みんなはハグやハイタッチをしてくれ別れが名残惜しかった。

表情までリアルなはく製たち

美しいトゥール市役所

次の予定まで、時間があったのでダミアン、ラザンヌ、ルカ、安藤君と私でテラス席のあるカフェでティータイムを楽しんだ。美しい街と大きな街路樹を見ながら飲む紅茶はとても美味しい。日本の音楽文化について話したり、ラザンヌたちとワークショップについて話したりした。そして、いよいよトゥール市役所での歓迎セレモニーの時間になった。トゥール市役所は現在のオルセー美術館であるオルセー駅も設計したヴィクトール・ラルーの作品の一つだ。セレモニーは「婚礼の間」で行われた。他の部屋にも案内されたが、市役所は外観だけでなく、一部の部屋の壁紙にはシルクが使われていたり、壁や天井に絵や彫刻が施されていたり豪華絢爛だ。セレモニーはとても緊張したためあまり覚えていないが、副市長から私たちの紹介を受けた後、フランス語と英語を使って挨拶した。終わった後はジュースを片手に多くの方と会話をした。セレモニーには、これまで関わってくださった方やこれからお世話になる方など多くの方が来てくださっていた。トゥールの新聞記者の方からも取材を受けて、後日記事が掲載された。トゥールの皆さんからの私たちへの期待を感じ、今後の研修もさらに頑張ろうと強く思った。

式典終わりにヤニックさんとエレーヌさんと

9月13日（水）

オロールさんの案内で市内の中心部や屋外市場、屋内市場（レ・アール）を見学した。トゥールも第二次世界大戦で市街地の建物に被害を受けた地域もあるが、全く被害を受けなかった地域もある。被害を受けた場所と受けていない場所の違いが一目ではわからないくらいになっていた。屋外市場にはフランス各地で採れた野菜や果物が多く売られていた。国内産のものに特にこだわっているそう

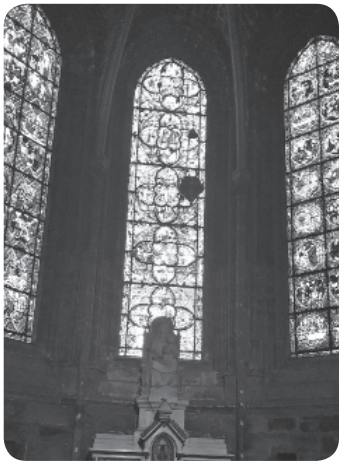
だ。平日の朝ということもあり、出勤前にちょっとした買い物で寄って行かれる方が多いと聞いた。レ・アールではチーズやお肉、スイーツなど高級なものも多く扱われていて、「デパ地下」のような雰囲気だった。肉屋ではうさぎ肉が原型がよくわかる状態で売られていて、なかなかグロテスクだと思った。

オロールさんの案内で街歩き

その後バスに乗り、図書館に向かった。初めて公共施設でのワークショップだった。図書館は静かで居心地の良い場所だった。日本を紹介する絵本が非常に多かったことに驚いた。ワークショップには子供たちとその保護者の方が 13 名ほどいて、最初に高松市を動画で紹介した後、保護者の 1 人に通訳してもらいながら折り紙で猫、鳥、飛行機を作った。飛行機は最後にみんなで飛ばして遊んだ。最後の質問コーナーでは、「もっとワークショップをしてほしい」や「9 日間しかトゥールにいないの？もっといてほしい。」と言ってくれた。子供たちと仲を深めることができ、帰り際には参加してくれた姉妹が何度もハグしてくれた。

図書館でのワークショップの様子

その後、市街地に戻り、市役所でオロールさんと同じ市役所職員であるマーゴさん、アミローさんと昼食をいただいた。前菜、メインディッシュ、デザート、さらにパンの順に選んで取ることができる。ホストマザーの料理を除いて、市役所での食事が一番おいしいと思った。ラタトゥイユや豚肉の煮込み料理をいただいたが、ラタトゥイユはナスやズッキーニの甘さとトマトの酸味がとても合っていたし、豚肉も少し噛むだけで崩れてしまうくらい柔らかかった。


美しいステンドグラス

食後は、トゥールで日仏交流活動をしている日の出日仏協会の御崎麗子さんと日本語を勉強している方とともに市内観光をした。その中にリルーさんという歴代研修生のホストファミリーの方もいた。日本語がとても上手で日本の大学に進学することが決まっていると言っていた。トゥール美術館、オペラ座、サン・ガシアン大聖堂、サン・マルタン大聖堂、コルベール通りなどを麗子さんのガイドのもと回った。サン・ガシアン大聖堂には大きなステンドグラスがあった。聖書のストーリーの一場面が描かれており、順番に見ると大きな一つの物語になる。写真を撮ることに夢中で、聖堂内を行ったり来たりしていると、麗子さんに教会は一方通行で回らないといけないと教えていただいた。天井が非常に高く、高いところにもステンドグラスがあり、そこから差し込む光はとても美しかった。サン・マルタン大聖堂は、ドーム型の屋根の上に司教であったサン・マルタンの像を見ることができる。建物に入ると神聖な気持ちになる。フランスではあまり見られないネオ・ビザンティン建築で作られているそうだ。この建物の地下にはサン・マルタンのお墓があり、見学した。その後、レ・アール

フランス語を日仏協会の皆さんに
教えていただいた

の施設内にある会議室で、日の出日仏協会の日本語を学んでいるみなさんが、私たちにフランス語で動物の名前を教えてくれた。英語と全く異なるのでとても難しかったが、発音を何度も教えてくれたり、スペルも丁寧に教えてくれたりしてとても楽しかった。

ラザンヌとオセアヌと4人でロワール川周辺を歩いて、2人のおすすめのプリュムロー広場にあるアイス屋さんにも行った。また、モノプリというフランスで有名なスーパーでコスメを買った。

ロワール川
流れが速く遊泳禁止となっている

夜は、安藤君も加えてヤニックさんの作ったガレットとクレープをいただいた。ガレットにはそば粉が使われており、チーズがたくさん入っていた。また、クレープは小麦粉が使われていて、もちもちしていてどちらもとてもおいしく幸せな気分になった。その後、再びラザンヌ、ルカ、オセアヌ、コラリーと合流し、プリュムロー広場のオープンカフェでお酒を飲んだ。夜は昼間と異なり、人が多くお酒を飲んで賑やかな空間になっていた。メニューはQRコードを読み込んで見るスタイル。フランス語のわからない私たちにルカが選んでくれた。私が飲んだのはモヒート。ミントのフレッシュさとやや甘いお酒がとてもおいしかった。会話とお酒を楽しみながら楽しいひと時を過ごした。帰りは危ないからと安藤君と私をそれぞれオセアヌとルカが見送ってくれた。

9月14日（木）

この日はトゥール大学ブロワ技術短期大学部でワークショップがあり、トゥール駅で集合だった。トゥール大学のファーマー先生と合流し、電車に乗ってブロワに向かった。チケットは事前にオロールさんから頂いていた。駅の改札は日本のような改札機がなく、日本ならチケットを買って車内で車掌さんにチケットを見せるがトゥールからブロワまで40分ほどの距離だったが、一度もチケットを見に来ることはなく無賃乗車が増えないのか心配になった。

ブロワの街並み

ブロワにつくと、トゥール大学のドゥボー先生も迎えに来てくれ、大学まで案内してくださった。職員室で、ファーマー先生が用意してくださった紅茶とマドレーヌなどをいただいて休憩した。小学校を訪問した時もそうだったが、休み時間や朝礼の前にお茶を飲んでリラックスするのがフランス式なのかと思った。その後、大学の校舎内や研究室、実験室を見学した。大学は日本の高等専門学校に似ているそうで、講義室やコンピュータ室、実験室の他に作品を制作するために必要な機械が取り揃えられている実習のための教室もあった。実際に学生の作品を見たが、粘土で作ったもの、機械で木材を切って作った作品などがあった。また、留学に来ていた日本人学生と交流することができた。新潟の高等専門学校や東京の大学院から来ていた。先生方の中には、日本に行かれた方もいて、職員室にお土産を飾ったり、日本の大学で見た「在

ブロワ大学のキャンパス

室 / 不在」プレートを取り入れていた。その後、みんなで食堂に行き昼食をとった。私は、チーズがたくさん入ったサラダとチキンのクリームかけを食べた。学食も気に入った。ファーマー先生の案内でブロワの街を少し歩きながら、コンピュータ系の学部のあるキャンパスへ行った。ブロワはトゥールに比べて、のどかな場所だ。坂や階段が多く移動にとても疲れた。キャンパスに着くとコンピュータ室で交流した。15 人くらいの学生とカードゲームをしたり、日本の話をしたりした。そのうちのジミーという学生とは特にゲームの話で盛り上がった。学食よりおいしいレストランがあると教えてくれたが、もっとおいしいところがあったのかと思い驚いた。学生からの提案で、授業も見学させてくれた。コミュニケーションと情報に関する授業で、演習で図を作成していた。授業は自由な印象で、周りの人に相談しあったり先生に気軽に質問したりしている。その後彼らと別れて、ファーマー先生と 3 人で街中を散策した。有名なブロワ城を見学する時間がなく残念だった。

マルムティエ高校のみんなと

トゥールに戻った後、マルムティエ高校の日本語のクラスで高校生 4 人と交流した。この学校はカトリック系の学校で中学校と高校が同じ敷地内にある広い学校だ。4 人は日本のアニメがきっかけで日本語の勉強を始めたと言っていた。高松市について紹介したあと、彼らからの質問に答えた。例えば、フランスでおいしかったものは何かとかフランスになぜ来たのというものだ。中には、「フランス人についてどう思う」という質問もあり、私はとてもフレンドリーで一緒に話していてとても楽しいと答えた。実際にフランスに来てたくさんの方と出会ったが、フランス人の方は話すことがとても好きで、明るくて、初めて会った人でもすぐに打ち解けることができると思う。そのようなフランスの方々が私はすごく好きになった。最後に高松市の資料やもともとする予定だった折り紙をプレゼントするととても喜んでくれて、ぜひ高松に行きたいと言ってくれる高校生もいた。

9 月 15 日（金）

エレーヌさんに集合場所であるトゥール美術館に車で送っていただいたが、ゴミを回収する車が車道をふさいで作業をしていたため、通行止めになってしまいギリギリで間に合った。後から芽里奈さんに教えてもらったが、道路が狭いのでこのようなことはよくあるそうだ。安藤君とラザンヌと合流した。トゥール美術館はサン・ガシアン大聖堂に隣接しており、大司教の館を改装したものだ。美術館の入り口にある門をくぐると巨大な木が私たちを出迎えるように立っている。ラザンヌの案内や翻訳アプリを利用しながら作品を鑑賞していった。フランスの大抵の美術館では作品の写真を撮ったり、模写したりしてもいいそうだ。日本では、できないところがほとんど。そのため、モナリザを模写した作品が各地にあり、トゥール美術館でも鑑賞できる。この時はまだ実際のモナリザを見たことがなかったものの、髪が若干茶色いと思った

芸術作品だけでなく建物も美しい

トゥール美術館のモナリザ

ことを除き本物そっくりだった。19 世紀から 20 世紀のフランス国内の作品を中心に展示しており、クロード・モネのセーヌ川を描いた作品やデマチ―の当時のトゥールの全景を描いた作品など印象に残るものが多かった。絵画の他に彫刻や銅像の作品もとても多く、美しい作品ばかりで贅沢な空間だった。館内を回った後はフランス式の庭でカフェクレームを飲んだ。のんびりとした庭の空気とドリンクの温かさがゆったりとした時間を生み出す。敷地内にはかつて飼育されていたゾウの慰霊のためにつくられた銅像もあった。

とてもおいしかった市役所でのランチ

美術館からトゥール市役所に向かう途中、ラザンヌおすすめのお店や雑貨屋をのぞいて買い物を楽しんだ。日本に戻ったころはぼろぼろになってしまったが、洋菓子店でクッキーを購入した。ルカとオロールさんと合流し再び市役所の食堂へ行った。やはり市役所のご飯は美味しい。これまでのおいしかったごはんの話やフランスのごはんの量が多い話をした。フランス人は会話をしながら長い時間をかけて食べるので、ご飯の量も多くなるのかなと考察した。

ヴィランドリー城のルネサンス様式の庭

そして、車に乗ってヴィランドリー城へ行った。ヴィランドリー城はルネサンス様式を持つ城で、ロワール川で最後に建設された城だ。ヴィランドリー城と玉藻公園、トゥールの 3 庭園は歴史的庭園連帯協定を結んでおり、高松市と関わりの強い場所の一つだ。城主のカルヴァロさんやマレさんの説明のもと部屋を見学した。こんなところで生活ができたことは羨ましい。子供部屋や食卓、客間など順に回った。その後、庭を散策した。庭はルネサンス様式に再現されていて、花だけでなくブドウや菜園もある。手入れが行き届いていて、植物が幾何模様に沿って植えられている。みんなで写真を撮って過ごした。ルカの写真技術の高さとラザンヌの明るいトークでとても楽しかった。

4 人と別れたあと、日本の祖母に向けて葉書を郵便局で送った。このはがきは、11 日後に届いたそうだ。切手を買いたかったのだが、バーコード型のものになって残念だった。一人で街歩きをし、教えてもらったお店でお土産を買い足した。大学終わりの、ボランティアをしてくれたダミアンと合流し、お茶を飲んだ。少し政治的な話もしながら、彼の将来について話してくれた。日本とヨーロッパを法律で結ぶ仕事をしたいと言っていた。いつか日本で会えたらいいなと思う。

ラザンヌと

この晩は、ヤルーさんとエステルさんと過ごす最後の晩だった。彼らの名前を当て字で、2 人のイメージで「矢瑠」と「恵朱泰瑠」と考えた。

9 月 16 日（土）

この日はヤルーさん、エステルさんご夫婦が出発するので早く起きた。ベルギーを経由してオランダに帰るそうだ。オランダの北部に住んでいるので 2 日かかると言っていた。最後に一緒に朝食を食

ランジェ城とお庭

べた。エレーヌさんのご自宅にはたくさんのジャムがある。バターやチーズをバゲットに乗せることもあるが、フランボワーズやマロンのジャムもとてもおいしい。最後にご夫婦からオランダのビスケットをいただいて、お見送りをした。

ホストファミリーと終日過ごす日で、お土産を買いに行きたいと言ったらエレーヌさんの娘さんのエレンマリーさんがショッピングモールに連れて行ってくれた。ここでも買い物を楽しんだ。買い物が終わった後、エレンマリーさんと会う約束をしていたが、なんと電話が繋がらなかった。その理由はダイヤルアシストになっていたからだ。なんとか合流し、昼食を家でいただいた。魚のパイがあったのでエレンマリーさんの愛猫のボビーがとても欲しそうにしていてかわいかった。その後、安藤君のホストファミリーとみんなでお城に行く予定だった。しかし、エレーヌさんが家に残らなくてはいけなくなりエレンマリーさんと2人で出かけた。エレーヌさんが来られなくなって残念だったが、言葉が通じないが明るく接してくれて道中とても楽しかった。

ランジェ城に到着した。城に着くと、安藤君、セヴリンさんや他に、長男のヒューゴとガールフレンドのみつえさん。さらにはセヴリンさんと同じアパートの夫婦までいてとても驚いた。みんなで城内を見学した。とても広く、日本語のガイドブックとヒューゴの丁寧な説明で充実した城巡りになった。ヒューゴは大学で日本語を学んでいてとても堪能なのだ。4カ所目のお城だったので、タペストリーがあったり壁の素材にシルクが使われていたり、今まで見てきたお城の特徴と一致する面も見ることができた。多くの城はベッドが非常に小さく天蓋がある。それは、まず横たわって寝ると死者と同じになるため座って寝ていたからだ。また、城は木でできていたため、天井から虫が落ちるのを天蓋でベッドに落ちないようにするためだ。ランジェ城はシャルル8世とブルターニュ公国の王女アンヌ・ド・ブルターニュの婚礼が行われた場所だ。それによって、ブルターニュ公国はフランス領となった。しかし、その数年後子供のいないままシャルル8世が亡くなり、彼のいとこにあたるルイ12世と再婚した。その時の様子が人形を用いて説明されていた。王女はとても若かったが強い影響力を持っていたため、結婚したがる人が多かったそう。苦労の多い人生だったのだろうという話をした。その後庭にも行った。ヴィランドリー城ほど大きくはなかったが植物が多く緑豊かで、シンプルだが美しかった。城壁が工事中だったので、城全体の写真を見ることができなかった。工事でなければとても綺麗だと教えてもらった。その後、お決まりのポストカードを買って、城下町にあるワイン屋さんに行った。入場券を見せれば試飲させてもらえて私もいただいた。とてもフルーティーで後味がとてもおいしかった。

人形と映像を用いた歴史の説明

帰り道、夕食にお好み焼きを作る予定だったのでスーパーに寄った。豚肉の薄切りがなかったりキャベツの芯がとても硬かったりと、ここからフランスと日本の食文化の違いが感じら

最後のディナー
左からエレーヌさん、エレンマリーさん、
芽里奈さん、パトリシアさん

れた。スーパーでは、窃盗防止のために会計後レシートをかざして、店外に出なければならない。この日は、トゥールでの最後の夜で、エレーヌさん、エレンマリーさん、芽里奈さん、ルイ、レオ、トマ、テオに加えて新しくブラジルから来たパトリシアさんと晩御飯を楽しんだ。特にパトリシアさんはお好み焼きを気にいってくれたみたいでとても嬉しかった。

9月17日（日）

ついにトゥールを出発する日が来てしまった。雷で目が覚めた。ここのところ朝は大雨や雷が鳴っていることが多かった。荷物の確認をしたり、部屋の片づけをしたり今までの日々を振り返っていた。その後、朝食をいただいた。フランスのバゲットをしばらく食べられないと思うと名残惜しかったので、1番好きな組み合わせのバターと共に食べた。ご飯の後、街の中を最後の散策をしに出かけた。その前にエレーヌさんとエレンマリーさんはこれから用事があるからとここでさよならをした。

最後のお別れ

エレーヌさんには私にとって初めてのホームステイだったのでたくさん迷惑をかけ、本当にお世話になったと思う。本当に感謝でいっぱいだ。街の中を歩いているとさまざまなことを思い出した。エレーヌさんが日本茶を買うお店やMaoという同じ名前のレストラン、歓迎式で訪れた市役所のホール。9日間は長いようであっという間でとても充実した日々だったと感じた。

家に戻ったあと、パトリシアさんにお別れを言って、芽里奈さんに車で駅まで送ってもらった。子供たちもお見送りしてくれ、短かったねと少し話しした。またぜひ会いに戻りたい。駅では、セヴリンさんヤニックさんが見送ってくださった。さらにラザンヌも駆けつけてくれた。本当にありがとう。TGVでのパリまでの旅は、行きはとてもワクワクしていたが帰りは寂しさでいっぱいだった。

パリに着くとホテルまで行き、パリ市内を観光した。オペラ座に行くつもりだったが工事中で見学できなかった。とても残念だった。その後街を散策しながらルーヴル美術館に行った。モナリザが特に印象的で、想像以上に作品が小さかったものの、教科書で見るよりとても美しい作品だった。最初にクロ・リュセ城でモナリザのレプリカを見て、さらにトゥール美術館でも見ていたのでずっと心待ちにしていた。「サモトラのニケ」や「ミロのヴィーナス」などの主要作品を見た。作品がとても美しいだけでなく、部屋の装飾も見事で本当に圧倒された。鑑賞しているとき「わーっ」と思わず何度も声が出て、感動した。ミュージアムショップではかわいいモナリザグッズがあり、思い出に購入した。また、2024に開催されるパリオリンピックのグッズ店もあり、ここでも思わず買ってしまった。機会があれば、観戦しに来たい。フランスでの最後の晩餐は、テラス席でエッフェル搭を見ることのできるレストランにした。フランスでよく食べられている短いパスタ、

ルーヴル美術館にて

テラス席で食べたディナー

コキエットとワイン。パスタはクリーミーで、ワインも香り豊かで幸せな気分になった。ライトアップされたエッフェル塔を見ながら飲むワインはとても贅沢だった。最後にシャンゼリゼ通りを歩いて凱旋門へ行った。もうすでに、暗くなっていたがライトアップされたことで凱旋門の細かい装飾が浮き出て見え、これもとても美しかった。突然の雨と強風にあったので、歩いてホテルまで帰るつもりだったが、雨宿りのあとウーバーでホテルに戻った。

土砂降りの中凱旋門の前で

9月18日（月）

行き帰りとてもおいしかった機内食

朝4時半に起きて身支度をした。5時半ごろにシャルル・ド・ゴール空港へロワシーバスで向かった。バス停でチケットを買うのに戸惑ってしまったが、他の乗客に手伝っていただいた。このロワシーバスは日本のバスより1.5倍ほど大きかったが、他の乗用車よりスピードがあったのでやや怖かった。空港でのチェックインも終え、飛行機も無事に出発した。機内食も行きと同様とてもおいしく、長旅もあっという間に感じた。

9月19日（火）

6時すぎに羽田空港に到着し、11時に高松空港に到着した。協会の職員に出迎えていただいた。家に帰ったら、お土産を両親に渡し、写真を見せながら滞在中の思い出を話したいと思う。

親善研修生　報告書Ⅱ

感想文

一生の思い出に残る経験

香川大学
農学部応用生物科学科　3年
川路　真桜

トゥールで過ごした日々は毎日が非常に充実していて、忘れがたい思い出となりました。今回の研修に参加したきっかけは高松や日本の文化についての認識を広めて、直接現地で異文化を学びたいと思うようになったからです。私には外国出身の友達が多く、一緒に話しているうちに自分自身の文化を誇りに思うようになっていました。そこで、高松市の姉妹都市であるトゥールの方たちにも直接広めたいと思いました。そのため、特に現地での日本文化紹介ワークショップは楽しみにしていたイベントです。まず、高松市を紹介するために動画を作成し、東京や大阪などの大都市の他に海と山の自然に囲まれアートであふれた素敵な高松市が日本にあることを紹介しました。また、直接文化に触れてもらうために書道と折り紙、日本の夏祭りとしてヨーヨー釣りなどを体験してもらいました。それだけではなく、小学校から社会人まで多くの方と関わる機会があり、会話を通じても発信していきました。トゥールの方は、自分の思っていたよりも日本に関心を持たれていると思います。植物園でのワークショップでは多くの方に来ていただきました。ワークショップでは子供の顔がみんなキラキラしていてとても楽しそうにしていた姿が今でも忘れられません。言葉も完璧には通じ合っていないはずなのに、ここまで子供たちと打ち解けられたのは彼らの明るさに助けられた面が大きいと感じます。

さて、私は今回の研修では言語で特に不安がありました。フランス語は初心者で英語も完璧ではありません。現地でコミュニケーションが取れるのか不安でした。しかし、実際は言葉が完璧でなくてもジェスチャーや表情でも十分伝えることができました。翻訳アプリを会話の中で使うことはほとんどなく、徐々にフランス語もなんとなくではあるものの理解できるようになっていました。特に表情は、相手に感情を伝えるうえで非常に大切なものだと気が付かされました。そのためか、写真フォルダーを見返すと私自身の表情が渡航前と比べて豊かになっていて、自分でも驚いたほどでした。

最後に、今回の研修に挑戦して本当に良かったと思います。お世話になった両親、高松市国際交流協会の皆様、ホストファミリー、トゥール市役所の職員の方、また事前研修や現地でのワークショップで関わった皆様に感謝を申し上げます。たくさんの方々のご協力があったからこそ、現地の方に高松市や日本の文化の発信ができたと思います。また、10日間の滞在を通して、トゥールの文化や習慣を学ぶことができ有意義な時間となりました。私は、またトゥールに訪れたいのでこれからもフランス語の勉強を続けていこうと思います。今後は、高松市の方にトゥール市の魅力を知っていただけるような活動に参加したいと考えています。そして、高松市の方だけでなくほかの国の出身の方々にも、日本の文化を知っていただけるように、国際交流に関するイベントにも積極的に参加していきたいです。